トビタテ！留学JAPAN　日本代表プログラム　留学状況報告書

※留学状況報告書はExcelデータで提出してください。（ファイル名：A.留学状況報告書_●期_学生個人番号_学生氏名.xlsx）

●基本情報

学生個人番号	S151N176010004
氏名(漢字)	高木　信乃
氏名(ひらがな)	たかき　しの
所属大学等名	宮崎大学
所属学部/研究科/学科	農学部
所属学科/専攻/コース	獣医学科
課程(▼で選択)	学部
留学修了時の学年(○年)	６年
期　(○期)	２期
コース　(▼で選択)	理系、複合・融合系人材コース
留学開始日(yyyy/mm/dd)	2015/09/01
留学終了日(yyyy/mm/dd)	2017/08/31

●留学の活動概要と成果

活動概要と成果 **※主要な留学先を2か所記入してください。** **2か所を超える場合は、ページ下部にある「活動概要と成果（予備）に記載してください**	1	国名	ベルギー
		都市名	リエージュ
		受入機関名	リエージュ大学
		期間 (yyyy/mm/dd)	2015/09/01~2017/03/31
		活動概要と成果	リエージュ大学では、感染症関連の研究室を複数視察し、その研究補助を行うことによって、同大学で行っている各研究内容を理解するとともに、ハイブリダイゼーションやPCR等を初めとする基本的な手技を習得した。手技の習得については、日本で使用していた物とは異なるものを使用したため、適切な実験結果を出すことに苦労した。また、日本では行ったことのない実験も新たに行った。これは、基礎知識から学ばせて貰ったのだが、初めて学ぶものであったため、その原理の理解に苦労した。最終的には、実験の数をこなすことにり、技術を習得するに至った。 また、現地の指導教官の指示により、自らテーマを選択・研究し、口頭発表およびポスター発表を行った。その結果、帰国する頃には、関連論文が一本受理された(the Emerging Infectious Diseases journal)。なお、現在、新たにもう一本の論文を投稿中である(EUROSURVEILLANCE)。 11月に宮崎大学で行われる卒業論文発表会では、上記研究に関連した研究内容を発表予定であり、論文投稿・卒業論文としての発表というトビタテ！前に設定した目標の達成が見込まれる。 また、このうち長期休暇を利用して、北欧の農家を訪問し、農場形態や伝染病に対する防疫措置についてのアンケートを実施して、欧州の農場経営状況の把握を行い、理解を深めた。
	2	国名	オランダ
		都市名	ダルフセン
		受入機関名	ポストチーズ生産・販売農場
		期間 (yyyy/mm/dd)	2017/04/01~2017/08/31
		活動概要と成果	ポスト農場では、ホルスタインの繁殖から、育成、搾乳、チーズの加工及びチーズの販売まで、「農場から食卓まで」の一連のフードチェーンに関わる業務に携わった。 また、現地の産業動物獣医師の診療にも同伴し、複数農家への診療業務を見学・体験した。 日本に比べると、感染症対策や、食品衛生に関してやや大らかな対応だが、動物福祉や、消費者とのコミュニケーションを大切にしているように感じた。 産業動物獣医師の診療業務については、日本とは異なる業務形態とその効率の良さを学んだ。 将来、上記の経験を獣医業界に発信していくと共に、日本における畜産獣医の新しい業務体制の提案をしていけるような活動をしたいと感じた。

<table>
<tr><td rowspan="3">日本発信プロジェクト
活動概要と成果
※事前課題P21と研修で検討した内容をもとに記載してください</td><td>活動タイトル
(30文字以内)</td><td>もっとグローバル宮崎！宮崎の食・文化の発信！</td></tr>
<tr><td>実行したこと</td><td>① 学生制作の宮崎PR動画の上映会 (2016年3月)
→リエージュ大学にて、現地の学生を集め、宮崎大学の学生が作った宮崎PR動画を上映。
② 宮崎の食と文化を伝える会 (2016年7月)
→リエージュ大学にて、フランス語で宮崎を紹介するとともに、宮崎の郷土料理（全６品目）を提供。
③ 宮崎の食と文化を伝える会 (2017年3月)
→リエージュ大学にて、宮崎の紹介とともに、宮崎の特産品を使用したスイーツを提供。
また、現地学生と協力し、リエージュと宮崎の特産品をコラボさせたスイーツを開発・提供。</td></tr>
<tr><td>成果・
気づいたこと</td><td>成果：
・ 日本および宮崎に興味をもつ学生を増やすことができた（アンケート結果より）
・ 2016年10月に、リエージュ大学から宮崎大学への留学生を出すことに繋がった
・ リエージュ大学、宮崎大学の双方の教員や学生をつなげ、継続的な交流活動につなげた
気づいたこと：
・ 日本自体に興味があるリエージュの学生は多かったが、特定の地方に興味のある学生は少なかった。映像と食品を使って宮崎を紹介することにより、「宮崎に行きたい！」と思ってもらえるようになり、より具体的に日本のイメージ、日本に実際に行くイメージを持ってもらえたように思う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">留学中および帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと
※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください
※具体的な経験エピソードをもとに記入してください</td><td>・うまくいかない時の対処法や、考え方の転換方法
留学先では、うまくいかないことの連続であった。例えば、私の場合は受け入れ先の教授や、研究室での周囲との関係がうまくいかなかった。留学先での受け入れ機関は、留学生にとって唯一の拠り所であり、その場所でうまくいかない事は、留学生活の破綻につながるものであった。また、私はうまくいかない時に、自分の中に原因を追求してしまう傾向があり、長い間自分を責め、辛い時期が続いた。
しかし、日本発信活動を行ったり、フランス語の授業を受けたりと、いくつか他に居場所を作ることによって、「留学先でも、他の機関ではうまくやっていける私」を発見し、必要以上に自分を責めなくて良いことに気付いた。
また、辛い時期が長く続いたことで、「自分は何が辛いのか」「自分は何を求めているのか」「自分には何が必要なのか」を深く追究することができ、今までの自分に足りなかった物を埋められたと思う。海外で生活するということのみならず、今後の人生をうまく生きていけるようになったのではないかと感じている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">あなたにとっての留学の価値
※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください</td><td>・「自分」の発見

全く知らない土地、言葉や常識も通じない土地に来ることによって、「自分とは何なのか」をより純粋に探ることができました。
また、日常生活が思い通りにならず、苦しい経験をすることによって、物事の優先順位を自分の中でしっかりとつけることができ、それに向かって突き進むことができるようになり、留学前よりも決断力がつき、迷うことが少なくなったような気がします。さらに、物事の優先順位をつけることによって、優先順位の低いものには執着しなくなり、その分周囲の意見に耳を傾けたり、抵抗なく周囲の動向に従うことができるようになりました。「抵抗なく周囲に合わせられること」は、私の思う「グローバル」のうちの一つです。</td></tr>
</table>

●留学機運醸成に向けた活動

エヴァンジェリスト活動企画 **※事前課題P65.66と研修で検討した内容をもとに記載してください**	カテゴリ	メディア（新聞・雑誌等）
	活動タイトル (30字以内)	日本獣医学生協会の機関誌における連載記事の執筆
	対象者・人数	日本獣医学生協会に所属している学生およそ１０００人
	実施場所	各大学、および学会会場にて配布。またインターネット上でPDFとして閲覧可能とする
	実施時期	2017年10月より随時
	内容	日本獣医学生協会（通称：JAVS）で発行している「獣TIMES」という機関誌にて、留学に関する連載記事を掲載する。その中で、自身の留学生活はもちろん、他の獣医学生の留学インタビューや対談、国内外の奨学金制度の紹介、留学相談の受付、質問コーナーも設ける予定である。一度きりの記事ではなく、連載にすることによって、多数の読者との対話と、考えや悩みの共有もできると考えている。
	達成目標	・連載中、通して１０名以上から相談をうけること。 ・アンケート等を通じて、感想や評価をいただくこと。 ・トビタテ！や各種奨学金制度の利用者を増やすこと。
	実施に向けたアクションプラン	既に、2016年の獣TIMESに留学経験の記事を掲載し、読者からの反応や、留学相談を受けている。 現在、獣TIMESの編集長と連絡を取り合っており、ページ数や連載回数についての相談をする予定である。 今のところ、読者は獣医学生に限られているが、要望があれば、大学関係者や教員、または獣医専攻以外の学生にも配布できるようにしたいと考えている。

※「留学の活動概要と成果で2か所以上の留学先を記載したい場合、下記に記載してください。

活動概要と成果（予備）	**1**	国名	
		都市名	
		受入機関名	
		期間	
		活動概要と成果	
	2	国名	
		都市名	
		受入機関名	
		期間	
		活動概要と成果	

派遣留学生等在籍大学等チェック欄　※下記チェック欄にチェックし、学生にExcelデータで返却してください

（1）報告書の全項目が抜け漏れなく入力されている　☑チェック１

（2）報告書内容がきちんと留学経験を振り返った内容になっている　☑チェック２

確認日：10月3日	確認者名：国際連携センター　河野　久